

札幌ドーム5個分の広いキャンパス森に囲まれ、芝生が映えるロケーションは、海外の大学かと錯覚するほどで、四季の織りなす風景は、とても美しいものです。キャンパスは27万㎡と広く、札幌ドーム5個分を有し、中央に広がる自然公園は東京ディズニーランドの1.2倍の72万㎡あり、とにかく広いゆとりの環境です。新千歳空港にも近く、札幌からのアクセスもJRエアポートで32分と申し分ありません。

さらに、キャンパスにはバーベキューコーナーもあり、学生と先生が楽しく過ごす憩いの場を提供しています。

文部科学省からも高い評価を受けているe-learning

教育面では、基礎教育の充実に特に力を入れています。本学が北海道の高校の先生方と協力して開発したe-learning教材を1年のリメディアル教育から2年、3年の学部教育にまで幅広く活用して、学力の向上を図っています。学生が「興味を持って」「飽きずに」「諦めずに」「繰り返し」取り組むことができるように様々な工夫がされています。このe-learningは、文部科学省から高く評価され、平成15年度には「特色ある大学教育支援プログラム」(特色GP)に「知識を共有した効果的な授業の展開～高大連携によるe-learning構築と教育現場での効果的活用」として採択されました。



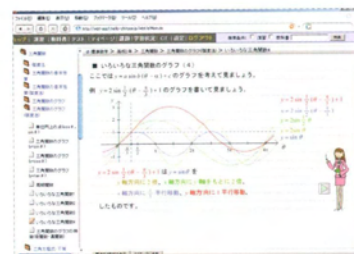
e-learning 開発風景



本部棟概観



バーベキューコーナー



e-learning 教材

キャンパス散策(千歳科学技術大学)



「人知還流・人格陶冶」

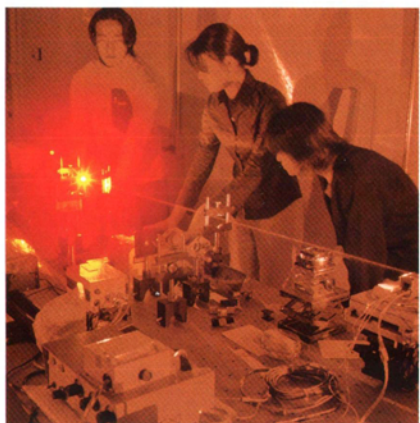
千歳科学技術大学は、21世紀の科学技術を牽引する「光科学」に重点をおいた教育・研究を行うため、平成10年4月、千歳市の公設民営方式により開設された理工系の単科大学です。本学は、「人知還流・人格陶冶」を建学精神に掲げ、理学と工学の融合を教育理念とし、横断的に理学と工学を学べるカリキュラムの下、学際的な「光科学技術」の教育研究に取り組んでいます。

学部は、光科学部(定員240名)、学科は、物質光科学科・光応用システム学科(定員各120名)で、各学科それぞれ「光」にかかわる材料、システム、光デバイスなどに関する教育研究に取り組んでいます。

平成14年4月に大学院光科学研究科博士前期課程(光科学専攻 定員20名)平成16年4月に博士後期課程(光科学専攻 定員3名)を設置し、光科学技術における高度専門職業人及び高度専門研究開発者の育成をめざしています。



キャンパス全景



研究風景

さらに、平成16年度には、「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)で、「学生力を活用した理科e-learning教材の開発～地域小中学校との連携による理科離れの抑制」「新たな情報キャリアアップ教育の実現～e-learningを介した全学情報教育の共有化」の2テーマが採択されました。現代GPの一つ目は、学生が主体となって、地域の児童生徒との対話や実験をとおして、e-learning教材を制作するもので、学生の総合的な人間力を醸成しています。二つ目は、本学の情報系科目のe-learning化を図るもので、学生のITスキル獲得に向けた情報キャリアアップ科目として開設しています。

最先端の研究

本学では、あらゆる分野で応用が期待される最先端の光科学について、様々な研究活動に取り組んでいます。レーザーや光ファイバーなどの開発研究、プラズマテレビなどに利用される発光素材開発、寒冷地用太陽光発電装置の研究、ネットワークや画像処理、DNAから光ファイバーを作り出す研究、光工学を利用して癌の発見や治療を行う研究、光信号を電気信号に変えず光のまま処理する材料開発、福祉ロボットの制御機能開発など工学や情報のみならず、バイオシステムや医療システムにまで幅広い分野で注目を集める魅力的な研究が行われています。

驚きの就職率

ITやエレクトロニクスのみならず、医療、環境、エネルギー、バイオなど、様々な分野で利用される光サイエンスに対して、産業界から寄せられる期待は高く、就職率は開学以来毎年95%を超え、今年には98.5%に達しました。また、就職先では、東京証券取引所1部・2部上場企業が就職者全体の約20%を占め、資本金1億円以上の大企業が約60%を占めています。



就職相談風景